

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「ともに学び、ともに育つ」多様な教育実践校として、自律した生活習慣を確立し、主体的に課題解決に取り組む力を備えた、やさしくたくましい人材を育成する。

2 中期的目標

1 エンパワメントスクールの教育内容の充実

PDCA サイクルで組織的に取り組む。

ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。

イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。

※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業に関する項目」の肯定的な意見を令和7年度には90%とする。(R2 84.5% R3 83.5% R4 86.5%)、

※ 「エンパワメントタイムに関する項目」の肯定的な意見を令和7年度には85%とする。(R2 78.1% R3 75.3% R4 80.1%)

ウ 4つの系列科目の内容の充実

※ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を令和7年度には85%とする。(R2 71.1% R3 72.3% R4 79.9%)

2 3つの力（新たな自分を創造する力、人間関係を大切にする力、社会に貢献する力）を育む。

(1) 学習活動の充実

ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。

※ グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、令和7年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.50以上にする。<R5 3.40、R6 3.45、R7 3.50> (R2 3.33 R3 3.29 R4 3.33) また、授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均値3.2以上を維持する。(R2 3.25 3.25 R3 3.19 3.21 R4 3.22 3.24)

イ 令和2年度入学生より新しくなった系列（マリンアドベンチャー、アクティブ ICT、ソーシャルケア、ワールドトラベラー）の構築と内容の充実を図る。

ウ 地域と連携した体験型授業を実施する。

(2) 特別活動の充実

体育祭、文化祭、地域と連携する山海人プロジェクト等の全員参加型行事、地域活動等の希望参加型行事を実施する。

※令和7年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭、文化祭の事後アンケートにおける肯定意見75%以上を維持する。(R2 70%、R3 75%、R4 82.1%) 国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見80%以上を維持する。

(3) キャリア教育の充実

ア 個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」生徒指導の実践

※学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を70%以上にする。(R2 66.6% R3 62.5% R4 66.5%)

イ 人権教育の推進

※学校教育自己診断における「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を75%にする。(R2 67.4% R3 68.6% R4 73.6%)

ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援

※学校教育自己診断における「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う」の肯定的意見について80%以上を維持する。(R2 78.1% R3 75.3% R4 80.1%)

エ 望ましい職業観の育成と進路実現

※系統的なキャリア教育により、自尊感情を育成し卒業時における進路未決定者を5人以下にする。(R2 10人 R3 15人 R4 8人)

オ 国際感覚の育成

※海外研修の実施等、国際交流の推進を図る。

(4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実

ア 高校生活支援カードの活用促進のため、カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無にかかわらず困り感のある生徒の支援を行う。(高校生活支援カードの提出100%を維持)

イ 授業のユニバーサルデザイン化により基礎的環境整備を図る。

※令和7年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.35以上にする。(R2 3.33 R3 3.29 R4 3.33)

ウ LHR や総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。

※令和7年度において、学校教育自己診断の「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を75%にする。(R2 67.4% R3 68.6% R4 73.6%)

エ 支援教育体制の整備

多様な教育実践校として、より生徒の教育的ニーズに応じた既成概念にとらわれないユニークなカリキュラムを考える。

※多様な学び方に対応するための環境整備や集団づくり、体験学習を通して、生徒の自尊感情を高め、中途退学や不登校を防止する。

(5) 通級指導教室の充実

ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。

3 人材の育成と管理

ア 教員全体の資質向上のため、授業改善、組織運営を中心に、支援教育、教育相談、人権問題、社会人教育等、教職員からの要望に応じたテーマで講演会や研修を実施する。※ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間20回実施する。

イ 働き方改革の一環として、会議資料のペーパーレス化を進め、会議等の効率化を図る。

※月当たり時間外勤務45時間以上の教職員を5人以内にする。

4 地域連携と広報活動

ア 地域の小中学校への、点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。

イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。※参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。

ウ 学校の取組みを発信する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 5 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
エンパワメントスクールの特徴である、モジュール授業や系列の授業に対する満足度は高水準を維持できているが、ステップスクールの特徴である地域連携を活用した体験的な学習が増えることで、更なる満足度を期待したい。 生徒指導については、個々の生徒の状況に合わせた丁寧な指導が生徒の納得感につながっている。 2 人担任制の実施や専門人材の配置が生徒の安心安全につながっている。 一方で保護者の学校に対するニーズは年々高くなっており、それにこたえる必要性を感じる。	第 1 回 ・めざすべき方向が生徒に伝わることで生徒は面白いと感じる。それがないときちんとした指導はできない。ぜひとも授業・生徒指導・進路指導が一体となって生徒にとって面白いものとなるようにしてほしい。 ・体験学習であれば、社会に参加する（周囲から感謝される）ことで自分自身も成長できる仕事があるというところまでもっていったほしい。 ・失敗を恐れることなくいろいろやってみることが生徒指導面・働き方面に重要である。 ・生徒だけでなく先生方が面白いと思うことを広報してほしい。 第 2 回 令和 6 年度 使用教科書の選定について承認いただいた。 第 3 回 ・これからも、もっとコミュニケーション能力を育めるような支援をしてほしい。 ・諸外国に比べて日本はそれぞれの個性を観た教育ができていない。岬高校に来ている生徒が学校に残るような楽しい学校にしてほしい。 ・生徒の下校の様子を見ていると、年々良くなっていると感じられる。 ・食堂をはじめ、入学したらなくなっているということがないようにしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4 年度値]	自己評価
1 エンパワメントスクールの教育内容の充実	PDCA サイクルで組織的に取り組む ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを行う イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う ウ 系列科目の内容の充実	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を定期的に開催する また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う イ 教育庁主催の会議等に担当者が出席し、情報収集するとともに、職員会議等においてフィードバックする ウ 定期考査ごとに、生徒の振り返りを行う	ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ 80%、70%以上を維持するとともに、88%、83%に近づける[86.5%・80.1%] イ 授業アンケートの全ての項目において、3.3 以上とする[3.22～3.36] ウ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を 80%以上とする[79.9%]	ア 「モジュール授業」 81.9% 「エンパワメントタイム」 78.4% (○) イ 授業アンケート 3.28～3.36 (○) 授業分析については、生徒の要望を授業改善に活かしきれなかった。 ウ 系列 80.6% (○)
2 (1) 学習活動の充実	ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する イ 4 つのコースの内容を生徒にとって、より魅力的なものにする ウ 特色ある学校設定の授業を実施する	ア ①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める ②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く。 ③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける ④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける ⑤具体的にほめる 以上の 5 項目を教員が目標とする 放課後等に生徒が自主的に学習できる環境整備や取組を行う イ 各コースで従前と異なる取組みを検討する ウ 地域資源や環境を活用した魅力的な体験型授業を実施する	ア 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が 4 段階中 3.30 以上を維持する[3.33] また、授業アンケート「生徒意識 1」「生徒意識 2」の平均が 3.2 以上を維持する[3.22 3.23] イ 各コースで新しい取組みを 1 つ以上行う [アクティブ 1、マリン 2、ソーシャル 1、ワールド 3] ウ すべての教科、系列で新たな取組みを 1 つ以上の実施 [自己探究 1]	ア 「授業展開」 3.36 (◎) 「生徒意識 1」 (△) ①3.17 ②3.21 「生徒意識 2」 (○) ①3.21 ②3.29 イ アクティブ 2 (モノポリー授業、羽衣国際ドローン授業)、マリン 2 (アマモ海洋教育、大阪湾生き物一斉調査) ソーシャル 2 (手作り絵本作成、多奈川保育園交流)、ワールド 3 (和歌山大学留学生交流、大阪公立大学留学生交流、外国人技能実習生交流) (◎) ウ 系列の授業ではどの系列も新たな取組ができたが、教科については実施できなかった。(△)
2 (2) 特別活動の充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施	様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する 山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する 広報誌等に活動を掲載してもらうなど、地域等への発信について検討する	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭、文化祭の事後のアンケートにおける肯定意見 70%以上を維持する [82.1%] ・希望者参加型行事の事後アンケート等振り返りににおける肯定意見を 80%以上にする [100%] ・広報誌などへの掲載回数 1 回以上 [1 回]	・山海人 P 92.7% (○) ・体育祭－% (事後アンケートに該当項目なし) ・自己診断結果は昨年 63.9% 今年 65.2% (○) ・文化祭 83.7% (○) ・大阪公立大学留学生との交流 100% (○) ・J・COM 番組 1 回、時事通信社 SNS 7 回 (◎)

府立岬高等学校

2 (3) キャリア教育の充実	ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の実践	ア 多様な生徒の状況に応じた生徒支援について学校運営協議会で聞く	ア 生徒のマナーについての学校運営協議会の意見を校内外での生徒指導に反映させ、通学路等での指導を継続。自尊感情の観点を取り入れ、生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を68%以上にする〔66.5%〕	ア「高校にはいろいろきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」 70.1% (◎)
	イ 人権教育の推進	イ LHR や総合的な学習の時間に、人権について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワーク等を行う	イ 生徒向け学校教育自己診断における「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を75%以上にする〔73.6%〕	イ「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」74.6%(○) 選択授業等での国際交流は増えたが、すべての生徒が履修している授業等での交流がなかったため、目標に届かず
	ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援	ウ 職業生活を営むために必要となるソーシャルスキル等の習得をめざす授業を実施し、課題のある生徒を支援する。	ウ・エ 卒業時における進路未決定者を5人以下にする〔8名〕	ウ・エ 未定者 4名 (○) 12月末現在
	エ 望ましい職業観の育成と進路実現	エ 1年次から進路実現を目標としたHRを計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める	オ 年に1回海外異文化との交流を行う〔ジッタ日本人学校との交流授業〕	オ 外国人技能実習生交流 4回以上(ベトナム、インドネシア、ミャンマー) (◎)
2 (4) インクルーシブ教育に向けた取り組みの充実	ア 高校生活支援カードの活用	ア 入学時に新入生全員に作成し、生徒の状況を年度当初に共有	ア 高校生活支援カードを活用し、必要な生徒に個別の教育支援計画を作成する。 配慮等が必要な生徒に対する個別の教育支援計画を作成するため、書き方についての教員研修を行う。	ア 提出率100% 個別の教育支援計画作成 (○) 教員研修は未実施だが、各教科で経験者が書き方のレクチャーを行った。(○)
	イ 授業のユニバーサルデザイン化	イ 支援教育の観点により、2(1)の授業づくりに取り組む	イ・ウ 2(1)イ・ウと同じ	
	ウ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する	ウ LHR や総合的な学習の時間に、人権について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワーク等を行う(再掲)	エ 生徒が自分の得意な学び方が「わかる」機会として、地域連携を活用した活動等を年に5回以上開催し、中途転退学率を12%以下にする。	エ スポゴミ甲子園、ライオンズフェスタ、岬町国際交流、「みさきの光宴」に参加するなど、計18回実施 (◎) 中途転退学率 16.1% (△)
2 (5) 通級指導教室の充実	ア 先駆的な取り組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る	ア 入級生徒に対して、自尊感情を評価するためのアンケートを実施 自立活動において、先駆的な取り組みを行う 通級指導室の環境整備を行う	ア 学期等の区切り毎にアンケートを実施し自尊感情の変化を把握する 地域連携による先駆的な取り組みを行う 特性に応じた環境整備を行う	ア すべての入級生徒に対し自尊感情アンケートを実施。(○) 地域連携による取り組みを20回以上実施。(◎) クールダウンとリラクゼーションのための部屋にエアコンを設置。(○)
3 人材の育成と管理	ア 教員研修の充実	ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善、組織運営を中心とする研修を行う	ア ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間20回以上実施する〔24回〕	ア 20回 (○)
	イ 働き方改革の推進	イ 会議資料のペーパーレス化、事前配信により業務の効率化を図る	イ 月当たり時間外勤務 45 時間以上の教職員を10人以内に作る〔12人〕	イ 一斉退庁日の周知徹底により、月当たり 7.7人 (◎)
4 地域連携と広報活動	ア 地域の小学校への、点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する	ア 以前行っていた取り組みを復活させる。	ア 以前の取り組みを復活する〔3件実施〕	ア 車いす体験ボランティア、アマモ再生出前授業、保育所絵本読み聞かせ (○)
	イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する	イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する	イ 参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する〔4団体〕	イ 延べ8団体が参加(スポゴミ、つつじ祭り、夏祭り、留学生ウォークラリー、ライオンズフェスタ、みさきの光宴、ビーチサッカー、ビーチバレー) (◎)
	ウ 学校の取り組みを発信していく	ウ 特色ある取り組みの広報を行う	ウ 従前の学校説明会に加え、クラブ体験会を行い、参加者の事後アンケートの肯定的意見の割合を80%以上にする。	ウ 9月と12月にオープンスクール実施 事後アンケート 肯定的意見 97% (○)